

## 当院で行う新たなアルツハイマー病治療：抗アミロイドβ抗体薬について

当院ではアルツハイマー病治療薬の抗アミロイドβ抗体薬レカネマブ（レケンビ®）による治療を行います。「物忘れ」が心配で、当薬剤に興味のある患者さまは、以下の解説を参考にされて当院脳神経外科にお問い合わせください。

○ 問い合わせ先      TEL：089 - 945 - 1471

### 【効能・効果】

アルツハイマー病では神経毒性を引き起こすアミロイドベータ（Aβ）の脳内沈着が契機となって、神経細胞やシナプスの破壊が起こり神経細胞死に至ることが発症の原因と考えられています。新薬の抗Aβ抗体薬レカネマブは、Aβのうち毒性が示唆されているAβプロトフィブリルに結合し、脳内のAβプロトフィブリルおよびAβプラークを減少させると考えられており、発症機序に基づいて疾患の進行を止める薬剤です。本薬剤により脳のアミロイド沈着を軽減し、早期アルツハイマー病での軽度認知障害および軽度の認知症の進行を抑制することが期待されます。ただし、本剤は疾患の進行を完全に停止、または疾患を治癒させるものではありません。

## 【対象】

アルツハイマー病と診断された中で、軽度認知障害および軽度の認知症を呈した方が、アミロイド PET や脳脊髄液検査により A $\beta$  病理を示唆する所見が認められた患者さまが対象になります。

## 【用法および用量】

レカネマブとして 10mg/kg を、2 週間に 1 回、約 1 時間かけて点滴静注します。本剤投与中は 6 ヶ月毎を目安に認知機能検査、患者さまおよび家族・介護者から自覚症状の聴取等による臨床症状の評価を行い、本剤の有効性が期待できないと考えられる場合は投与を中止します。

## 【副作用】

急性輸液反応として頭痛、悪寒、発熱、吐き気、嘔吐などの症状が現れることがあります (26.1%)。またアミロイドに関連した MRI 異常所見として、脳浮腫・滲出液貯留 (12.6%)、脳微小出血およびヘモジデリン沈着 (13.6%)、脳表ヘモジデリン沈着症 (5.2%)、脳出血 (0.4%) が現れることがあります。これらの多くは臨床症状を伴いませんが、痙攣やてんかん重積などが起こることがあります。アミロイド関連の MRI 異常所見の検出と適切な対応のため、投与前

および投与期間中は定期的に MRI を実施します。**その他**には過敏症・頭痛が 1% 以上に、皮疹・倦怠感・注射部位反応が 0.5~1%未満に、紅斑・悪心・ALT 増加・眩暈などが 1%未満に認められます。

なお、当薬剤にかかる費用は体重 50kg の人の場合は年間で 298 万円になりますが、患者の年齢や所得に応じて自己負担に上限を設ける「高額療養費制度」が適用されるため、実際の患者負担額は減額されます。

(文責：久門良明)